

「罪深い女を赦す」

2023年03月24日

「だから、言っておく。この人が多くの罪を赦されたことは私に示した愛の大きさと分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。」そして、イエスは女に、「あなたの罪は赦された」と言われた。同席の人たちは、「罪まで赦すこの人は、一体何者だろう」と考え始めた。イエスは女に言われた。「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」（ルカ7：47～50）

主イエスはファリサイ派のシモンという人から、食事に招かれたので、彼の家に行き、食事の席につかれた。徴税人や罪人としばしば食卓を共にしておられるが、ファリサイ派の人の招きにも応えておられる。この町に、「罪深い女」と言われている人がいて、主イエスがシモンの家で食事をしていると聞き、香油の入った石膏の壺を持って、入って来た。「罪深い女」とは、病気を負った人とも考えられるが、「娼婦」と理解するのが正しいのではないか。彼女は主イエスの足元で泣きながら、足を涙で濡らし、自分の髪の毛で拭き、足に接吻して、香油を塗った。この光景は、何とも艶めかしく、理解し難い。客の足を洗い、香油を塗ることは歓待を表す行為であった。シモンの家に招かれた時、主イエスが歓待の行為を受けなかったのを知り、彼女は自分の涙で足を洗い、自分の髪で拭き、香油を塗ったのである。シモンは、これを見て、「この人がもし預言者なら、自分に触れている女が誰で、どんな素性の者か分かるはずだ。罪深い女なのに」と思った。主イエスはシモンの心を見抜き、「シモン、あなたに言いたいことがある」と言うと、「先生、お話しください」と答えたので、一つの譬えを語られた。ある金貸しから、一人は500デナリオンを借り、もう一人は50デナリオンを借りた。二人は、返すことができなかったので、金貸しは二人の借金を帳消しにしてやった。主イエスは、「二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか」と聞いた。シモンは、「帳消しにしてもらった額の多いほうだと思います」と答えた。主イエスは、「あなたの判断は正しい」と言われた。そして、女の方を振り向いてシモンに言われた。「この人を見ないか。私があなたの家に入ったとき、あなたは足を洗う水をくれなかったが、この人は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛で拭ってくれた。あなたは私に接吻してくれなかったが、この人は私が入ったときから、私の足に接吻してやまなかった。あなたは頭にオリーブ油を塗ってくれなかったが、この人は足に香油を塗ってくれた。」シモンは主イエスに愛を持って招いたのではなく、落ち度を捜して非難しようと、冷ややかな思いで招いたのである。そして主イエスは、「だから、言っておく。この人が多くの罪を赦されたことは、私に示した愛の大きさと分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない」と言われ、女に向かって、「あなたの罪は赦された」と宣言された。彼女は、主イエスを愛し、無償の行為を尽くした。それを顧みられ、罪の赦しを得たのである。同席していた人たちは、「罪まで赦すこの人は、一体何者だろう」と考えた。主イエスは彼女に優しく、「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と言われた。救いは神から来るのであるが、身を砕く主イエスへの愛によって、彼女は救いに与ったのである。罪深い女と言われた彼女は赦され、神に是認される存在となり、安心して、自分の生を営むことができるようになった。著者ルカは、主イエスは罪を赦す権威を持つ神の子であると証言している。そして、深い愛は深い赦しを得ると告げる。逆に言えば、自分の罪を深く知る人は深い赦しを与えられるということである。